



相模原市 平成20年度八瀬川多自然川づくり基本計画  
八瀬川ワークショップ  
結果概要

八瀬川多自然川づくり基本計画とは

八瀬川は、田名に端を発し、陽原段丘を西から東に流れ、麻溝地区の「三段の滝」上流で一級河川相模川と合流する延長約5kmの中小河川です。

流域には閑静な住宅地や水田、段丘斜面の樹林帯があり、段丘崖からの湧水が流入し、推量も比較的豊富で、本市の都市部における住民や生物にとって貴重な水辺空間を創出している河川です。

本市では、良好な自然と水質を保全し、全川にわたって一貫した方針をもつ多自然川づくりを目指し、平成20年度に「八瀬川多自然川づくり基本計画」を策定しました。

お問い合わせ先  
相模原市都市建設局土木部河川整備課  
〒259-8611 相模原市中央区2-11-15  
TEL 042-769-4273 FAX 042-769-5822

八瀬川ワークショップとは

八瀬川は、田名に端を発し、陽原段丘を西から東に流れ、麻溝地区の「三段の滝」上流で一級河川相模川と合流する延長約5kmの中小河川です。皆さんの意見を伺いながら、貴重な自然を活かすつ、地域の暮らしや歴史・文化に調和した「八瀬川多自然川づくり基本計画」を策定することが目的です。

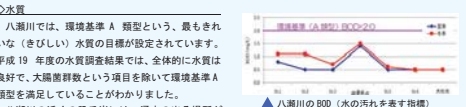
ワークショップとは？  
ワークショップは、参加者が様々な意見やアイデアを出し合いながら物事を割りあげていき、方向性を打ち出し、合意を図ったりする場です。

八瀬川について

八瀬川は整備対象区間が延長5kmながら、田圃や住宅地、渓谷、崖線沿いを流れており、多様な地形と周辺環境を有しています。流域は斜面林や湧水などの自然が多く残っていますが、昔と比べると工業団地や住宅地などが増えてきています。



八瀬川は、田名に端を発し、陽原段丘を西から東に流れ、麻溝地区の「三段の滝」上流で一級河川相模川と合流する延長約5kmの中小河川です。流域には閑静な住宅地や水田、段丘斜面の樹林帯があり、段丘崖からの湧水が流入し、推量も比較的豊富で、本市の都市部における住民や生物にとって貴重な水辺空間を創出している河川です。



八瀬川の近くの段丘崖には、湧水の出る場所がたくさんあり、それらは八瀬川の源流にもなっています。これらの湧水は深い地層からの水が湧き出ていると思われ、良好な水質を保つためには、相模原市域の浸透域をできるだけ保全することが望ましいと考えられます。

八瀬川流域の小中学校を対象に、子供たちや保護者、学校の先生にアンケート調査を実施しました。「八瀬川がどんな川になったらいいと思うか？」との質問に、多くの人が「魚や虫などが生息する自然のままの川」や、「水に触ったりできる川」になったらいいと回答しています。

2008.5.31 第1回ワークショップ  
八瀬川の良いところ・良くないところ  
参加メンバーが5つの班に分かれ、その中で八瀬川の良いところや良くないところについて話し合い、最後にみんなの前で発表しました。

昭和20年代は子供の遊び場だった  
上流の暗渠部分があったらいい

▲良いところ、良くないところについて話し合ってる様子

2008.6.15 第2回ワークショップ  
八瀬川観察会  
水生生物の専門家の解説を交えながら、半日かけて八瀬川の観察をしました。ワークショップのメンバーは、現在の様子をボラロイドカメラで撮影し、カルテにコメントを書き込みました。

専門家の解説を聞きながら、八瀬川に生息する生き物に触れる  
気になるものを撮影  
川の状況をカルテに書き込む



▲八瀬川の良いところ・良くないところに関する意見のまとめ (図は1班のもの)

2008.6.4&6.20 夢の丘小学校の授業  
小学生に身近な川である八瀬川に親しんでもらうことを主な目的として、相模原市立夢の丘小学校の4年生約160名を対象とした総合学習の時間授業を行いました。

○水の性質と八瀬川に関する授業 (2008.6.4)  
教室での水の循環の仕組みや八瀬川に関する授業を行いました。子供たちはとても興味深く話を聞いていました。クイズや質問のコーナーではスタッフが予想外の質問を受け取るなど、活発な発言がたくさんあり、水や川について楽しく学ぶことができたようです。

▲授業の様子 ▲授業を使ったスライド  
▲八瀬川の体験学習 (2008.6.20)  
八瀬川がどんな川なのかを知らしてもらうために、実際に川に行き、以下の体験学習をしました。  
○タモ網を使った魚の捕獲方法  
○魚やヤゴ、アメリカザリガニなどの観察  
○水質と流速の実験  
当日は天候に恵まれ、専門家の先生やスタッフの熱心な説明のもと、子ども達の歓声が水面にぎやかに響き、有意義な授業を実施することができました。

▲水質実験 ▲底生動物の観察

2008.7.7 ワークショップ番外編  
渓谷地帯観察会  
ワークショップメンバーから希望者を募り、八瀬川の渓谷地帯約700mを1時間半かけて歩きました。

▲渓谷ゾーン (右下が下流方向)

1土がむき出しの斜面には今にも倒れそうな木が本が見られた。  
2水辺には竹が茂り、薄暗い。  
3まっすぐの溝があり、昔水車が設置されていたと思われる。  
4国道129号の橋下は薄暗く、落書きやゴミが見られた。  
5水の流れは部分的に速く、膝と同じ水深の場所もあった。  
6渓谷地帯の下流出口では、牧場のすぐ横を川が流れている。

2008.7.26 第3回ワークショップ  
多自然川づくりを実施している川を見学  
神奈川県内で多自然川づくりを実施している道保川、引地川、和泉川、いたち川の見学をしました。ワークショップメンバーは現況を撮影し、カルテにコメントを書きました。道保川では、「道保川を愛する会」の会長さんから、活動内容に関する貴重な話を聞くことができました。

▲当日の見学コース

▲道保川を愛する会 会長さんのお話を聞く  
▲川に接する市民活動の掲示板を見ながら意見交換  
▲道保川で行われていた「飛び入り」に参加  
▲川の構造物(水制工)をスケッチ

2008.9.7 第4回ワークショップ  
整備方針とイメージ①  
整備の方針とイメージについて、田圃、住宅、渓谷、崖線の4ゾーンごとに話し合いました。対象となる区域の話題以外に、水源や計画の実現性、維持管理活動などについても意見が出ました。

▲班ごとに整備方針とイメージを検討  
▲自然に蛇行する川がいい！  
▲水辺の樹木を残したい

2008.10.19 第5回ワークショップ  
整備方針とイメージ②  
前回出た意見を踏まえて、事務局が作成した平面図と横断面の計画案を見ながら、整備方針とイメージについて話し合いました。班ごとの検討結果発表では、特に渓谷ゾーンの整備の考え方について議論が交わされました。

▲メンバーと市の職員が意見交換 ▲検討結果の発表



▲整備方針とイメージに関する意見のまとめ

2008.10.29 夢の丘小学校発表会  
子どもたちは、八瀬川について調べたことや、どんな川にしたのか、またそのためになにができるのか、について発表しました。八瀬川にはゴミが落ちていること、水深が深く危険なところもあることを学ぶとともに、きれいな川にするためにゴミを捨てないように呼びかけるポスターを作るなどの提案がありました。

▲発表の様子 ▲ゴミ調査隊の調査結果

2008.11.30 第6回ワークショップ  
整備方針とイメージ③、市民協働の河川活動  
第5回までの検討を踏まえて、さらに計画案を最終める作業を行いました。特に、崖線ゾーンの観水点やおまちの滝、住宅ゾーンの水まわりの整備などについて詳細な検討を行いました。

▲全員で討議している様子  
▲市民協働の取り組みの紹介

他の川や里山で市民協働の活動を行っているワークショップメンバーから、それぞれの取り組みを紹介してもらいました。その後、ワークショップメンバーは2つのグループに分かれ、八瀬川で市民ができることについて話し合いました。

ゾーン	知る	つくる	暮らす
共通	○ホテルの観望台を知る	○ホテルの観望台を復元する	○ホテルの観望台を復元する
崖線	○昔からの生活との関わり方を知る	○カモ等の渡り鳥の生息範囲を広げる	○カモ等の渡り鳥の生息範囲を広げる
渓谷	○川の探検会 ○定期的なワークショップの開催 ○水質の保全活動 ○水質の定期測定 ○指導者の育成	○川の流れを活用した遊びや遊び場の設置 ○遊歩道の確保	○竹の伐採等、斜面の手入れ ○ごみの清掃 ○定期的なワークショップの開催 ○水質の保全活動 ○水質の定期測定 ○指導者の育成
住宅	○自然観察会 ○地域の子供を対象とした自然学習会 ○遊田せせらぎ公園イベント	○川の流れを活用した遊びや遊び場の設置 ○遊歩道の確保	○サークル活動の組織づくり
田圃	○湧水のマップづくり ○八瀬川沿いの歩き	○あじさいを植えて散歩道をつくる ○ゴルフ場近くの斜面と八瀬川の一帯の整備	○ワークショップ ○休耕田の復活 ○湧水の調査保全 ○草刈 ○高層部の緑の保全 ○家庭排水管理調査 ○ごみの清掃

▲市民協働による河川活動のアイデア

2009.2.1 第7回ワークショップ  
ワークショップ案のまとめ  
これまでのワークショップで話し合ってきた整備方針とイメージ、市民協働の河川活動について、最終確認を行いました。

▲全員で討議している様子 ▲オブザーバーの麻布大学 岡本教授からコメント

ワークショップの成果は裏面をご覧ください